



PREMIUM WATER
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2024



INDEX

1 PHILOSOPHY 理念体系 P02

2 TOP MESSAGE トップメッセージ P03

3 FEATURE 特集 P05

守るのは価値ある天然水 P05
カーボンニュートラルへの取り組み P07

4 DECLARATION OF SDGs SDGs宣言 P08

プレミアムウォーターホールディングスのSDGs宣言 P08
マテリアリティ特定プロセス 4つのテーマ P09

5 ENVIRONMENT 環境 P11

環境 3つの柱 P12
水資源の保全 P13
プラスチック資源循環型モデルの実現 P16
カーボンニュートラルへの貢献 P21
省エネルギー活動への推進 P22

6 COMMUNITY & SOCIETY 地域・社会 P25

地域・社会への貢献 P26
地域共生方針 P27

7 GOVERNANCE ガバナンス P37

ガバナンス3つの柱 P38
コーポレート・ガバナンス体制 P39
取締役会に関する情報 P40

8 COMPANY EMPLOYEE 社員 P41

心と体の健康づくり P43
ダイバーシティへの取り組み P44
農業と福祉の連携 P45
働きがいの追求 P46
人事関連データ P47

本レポートに使用している写真の一部はイメージです。

PHILOSOPHY

理念体系

プレミアムウォーターホールディングスは水を守り、育むことで、持続可能な社会の実現に寄与します。
基本となる考え方として以下のような理念体系を定めています。

水を守る。人を育む。



自社の活動を通じて人々の生活を豊かに
そして世界で一番 愛される会社へ

「日本の天然水」という唯一無二の価値を日本人に
そして世界に伝える事で社会的意義を果たし、
地方創生を実現する

プレミアムウォーター
ホールディングスが
ステークホルダーと交わす約束

VISION

プレミアムウォーター
ホールディングスの
目指す未来

MISSION

プレミアムウォーター
ホールディングスに
与えられた使命

TOP MESSAGE

トップメッセージ



私たちにしかできないSDGsとは何かを突き詰めることで、価値ある天然水を守り、世の中にとって必要な会社であり続ける

株式会社プレミアムウォーターホールディングス 金本 彰彦
代表取締役社長

「100年続く企業へ」をグループミッションに掲げ、天然水という日本の貴重な資源をもとに事業を展開している私たちにとって、SDGsへの取り組みは必要不可欠なテーマです。

「私たちにしかできないSDGsとは何か？」を常に念頭に置きながら、事業活動を通じて関わる人々の生活が豊かになることを目指しています。

そこで自然の恵みである天然水や持続可能な未来を守っていくために、私たちは事業を通し、「①環境を守り育てることで自然を豊かに」、「②地域と共生し人々の暮らしを豊かに」、「③公正で透明かつ潤いのある組織を」、「④多様性を尊重し働きがいのある環境で社員の人生を豊かに」の4つのテーマでサステナブルな取り組みを推進しています。

中でも特に強く意識しているのが、「地域の環境保全」と「社会への還元」です。

自然の恵みを地域社会へ還元することで、持続的な環境保全を実現したい

採水地を含む周辺地域の歴史と風土のおかげで“おいしい天然水”は生まれ、地域の皆様のご理解とご協力を得て採水工場は稼働できています。つまり私たちは、地域社会から“水源”という貴重な恵みを分けていただくことで、初めて事業を展開することができるのです。だからこそ採水工場を建てる際には、最大限に地域社会が潤い、かつ利益を生み続けられるサステナブルな仕組みづくりを最優先で考えます。富士吉田市に本店登記をして地元で税収の形で還元していることや、南阿蘇村の誘致企業第1号として2014年から工場を稼働させたのも、そうした企業方針の一環です。

今後も、私たちが営業努力によってユーザーを増やせば増やすほど、税収も増え、持続的に地域のインフラ整備や自然保護に活かされ、水源を取り巻く環境の保全に役立つという良い循環が生まれます。また、ユーザーが増えるにつれて各地に採水工場を新設することができれば、税収に加えて新たな雇用や経済需要の創出にもつながるため、地方創生に大きく寄与することができるでしょう。

環境保護や社会貢献を声高に唱える派手なSDGsとは違い、私たちの取り組みはあまり世に知られることのない地味なものです。ただ、営利事業として収益を上げることがダイレクトに地方創生に貢献し、ひいては自然環境の保全につながるという“地に足の着いたSDGs”の推進こそが、実はこれからの日本にとって重要なのではないかと感じています。

今後はより地域に密着し、地域や自治体の皆様とともに、天然水を通じてより豊かな暮らしの実現に向け、取り組んでまいります。

「プラスチック資源循環型モデルの実現」や「カーボンニュートラルへの貢献」による持続可能な社会の構築

日本の価値ある天然水を次世代へ受け継ぐべく、「水資源の保全」を中心に、持続可能な社会の構築に向けた「プラスチック資源循環型モデルの実現」、地球温暖化防止に貢献する「カーボンニュートラルへの貢献」の3つに重点を置いた取り組みを実施していきます。

現在私たちは、安全・衛生面の配慮から、お客様に安心安全に水を飲んでいただけるよう、衛生的でリサイクル可能な使い切りのペットボトル容器で天然水をお届けしていますが、将来的には容器を自ら回収・リサイクルできる体制を整えるか、ペットボトルの削減につながるような配送のスキームを構築する必要があると考えています。この点に関しても今後の営業努力によってユーザーを増やし、採水拠点を全国に分散して新設することができれば、プラスチックや石油燃料、CO2等の削減につながる実行可能な選択肢がさらに広がるでしょう。

また、設計段階から環境に配慮した資材を組み込み、これまで以上にリサイクルしやすいペットボトルやウォーターサーバーへ規格を見直すとともに、消費者に対するサステナブルな啓蒙まで、一気通貫の「プラスチック資源循環型モデル」を実現していきます。

さらに、脱炭素社会の実現を目指し、省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの積極的な導入及びバリューチェーンのステークホルダーとの協働を通じて、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量の削減に努めていくことで、「カーボンニュートラル」に貢献していきます。

これからの時代は、世の中にとって必要な企業の商品しか選ばれなくなる傾向がますます強まっていくでしょう。だからこそ、社会にとって本当に意味のある取り組みとは何か？を突き詰めながら、私たちにしかできないSDGsに取り組んでいきたいと考えています。その想いを実現するためにも、おいしい日本の天然水を“世界で一番多く”お届けできる会社になり、自然の恵みを社会にしっかりと還元し、サステナブルな未来の実現に向けて貢献していくことが今の目標です。

守るのは価値ある天然水

プレミアムウォーターの天然水は、特定の水源から採水した高品質な原水。
自然の力で磨き上げ、ミネラルを豊富に含んだ天然水を次世代へとつなぐため、持続可能な循環型社会を目指します。

多くのウォーターサーバーの水は、加熱処理がされています。加熱処理を行うと水の中の酸素や炭酸ガスが失われることとなります。

非加熱処理の水は水質の高さやおいしさの目安となる溶存酸素が減少しないため、自然本来のおいしさをお届けすることができます。

当社は日本の方々に自然本来のおいしさをお届けするべく、もっとも自然に近く、かつ希少であるナチュラルミネラルウォーターを非加熱処理でお届けしています。加熱処理と比べ、生産管理が難しくコストもかかりますが、安心・安全でおいしい天然水を追求するため、当社ではあえて非加熱処理を採用しています。



2023年 モンドセレクションにて 優秀品質最高金賞・優秀品質金賞を受賞

プレミアムウォーターは「非加熱処理」に加え、自然のままでも飲める水を求めてプレミアムな採水地を厳選しています。さらにくみ上げた原水は丁寧にフィルターで除菌処理を行っています。その結果、2023年モンドセレクションにて優秀品質最高金賞・優秀品質金賞を受賞。プレミアムウォーターのおいしさは、世界のプロから認められているのです。

※優秀品質最高金賞：北アルプス・吉野・朝来・金城 / 優秀品質金賞：富士吉田・富士・岐阜北方・南阿蘇



ミシュラン星付きシェフ*の「銀座ふじやま」藤山貴朗氏、「麻布 和敬」竹村竜二氏、「西麻布大竹」大竹達也氏の3名が「毎日飲みたいくなる」「飽きがこないおいしさ」と絶賛！

※「ミシュラン星付きシェフ」とはこれまでミシュランガイドにて星を獲得したシェフのこと

安全への取り組み

地下水脈からくみ上げた原水は、4段階以上のフィルターで丁寧に除菌を行い、無菌のクリーンルームで新品のペットボトルにボトリングされます。製造工程では、独自に設けた厳しい品質管理規定により、毎日定期的な水質検査や月に1回の放射性物質検査が行われています。

また、日本人の舌に慣れ親しんだ弱アルカリ性の軟水は、妊娠中のママや赤ちゃんに「やさしい」水です。長い年月をかけてろ過した原水をくみ上げているので、地表に露出した水を使用していません。地表の環境・変化に影響されない、地下水脈から直接くみ上げた安全な天然水です。

衛生的なペットボトル

プレミアムウォーターの容器にはペットボトルを採用しています。宅配方法は、採水地より定期配送される「ワンウェイシステム」のため容器の回収が不要で、省スペース、交換が手軽なのはもちろん、リサイクル可能な使い切りなので、いつでも新品です。また、飲んだ分だけ収縮するので外からの空気も入りやすく、衛生的です。

採水地



カーボンニュートラルへの取り組み

プレミアムウォーターでは、地球温暖化の主要因であるCO₂に対して排出削減目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを進めています。

カーボンニュートラルへの対応

日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出されています。

日本政府の方針に基づき、プレミアムウォーターも2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。スコープ1・2についてはカーボンニュートラル工場を軸にした省エネルギー活動の推進や再生可能エネルギーの積極的な導入、スコープ3においては地域配送の強化及びステークホルダーとの協働を通じて、温室効果ガス排出の削減に努めます。

また自社工場においても、カーボンニュートラルの実現に向けて、独自技術や設備の拡充を進めております。



カーボンニュートラル工場とは

「カーボンニュートラル工場」とは、CO₂排出量が実質的にゼロとなる工場のことを指し、工場の活動から排出されるCO₂を創エネや省エネによって相殺します。CO₂排出量を削減するには、「エネルギー消費量」と「CO₂排出原単位※」を下げることが求められています。プレミアムウォーターでは、CO₂排出削減に向け、カーボンニュートラル工場の実現を目指しております。

※燃料や電力、熱等のエネルギーの使用に対する、CO₂排出量を示す単位



DECLARATION OF SDGs

プレミアムウォーターホールディングスのSDGs宣言

プレミアムウォーターホールディングスでは「水を守り、人を育むこと」を掲げ、
事業活動を通じたさまざまな社会課題に取り組み、私たちに関わる全ての人々が豊かになることを目指します。
そして社会課題の解決と経済発展の両立を図ることによって、
持続可能な社会の実現に貢献していくことを宣言いたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



マテリアリティ特定プロセス 4つのテーマ

1

環境を守り育てることで自然を豊かに

2

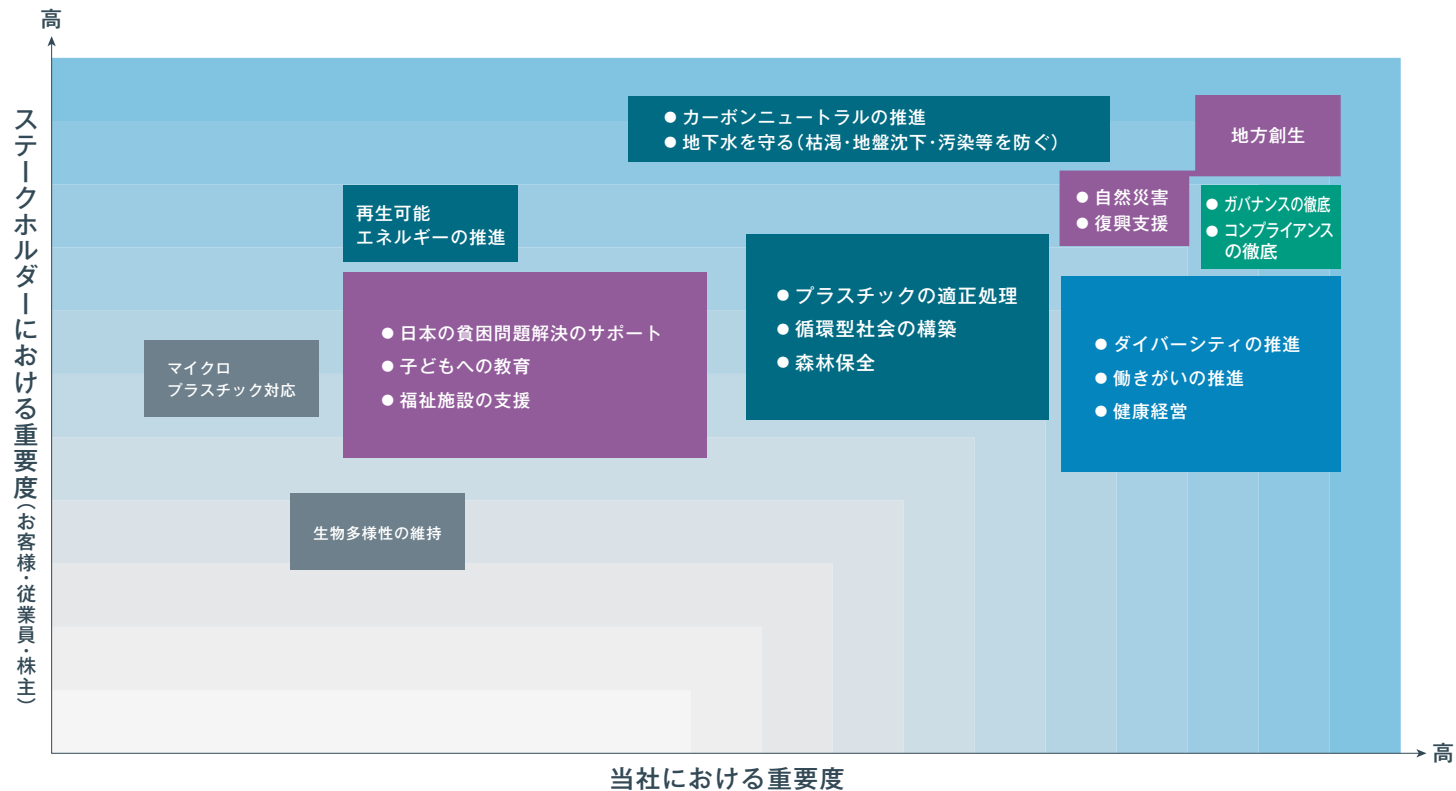
地域と共生し人々の暮らしを豊かに

3

公正で透明かつ潤いのある組織を

4

多様性を尊重し働きがいのある環境で
社員の人生を豊かに



持続可能な未来を目指して 4つのテーマを重点的に展開

自然の恵みである天然水を守るため、そして持続可能な未来のために、
私たちは事業を通し4つのテーマでサステナブルな取り組みを
推進しています。

1 環境を守り育むことで自然を豊かに

- 目標
- 水資源の保全
 - プラスチック資源循環型モデルの実現
 - CO₂削減によるカーボンニュートラルへの貢献



2 地域と共生し人々の暮らしを豊かに

- 目標
- 地域コミュニティの発展
 - 地域環境の保全
 - 地域経済圏の構築



3 公正で透明かつ潤いのある組織を

- 目標
- 企業統治の実効性・透明性の向上に向けた法令等の遵守
 - 適時適切な情報開示等を通じたコーポレート・ガバナンスの強化



4 多様性を尊重し働きがいのある環境で社員の人生を豊かに

- 目標
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進による多様な人材の活躍の場を創造
 - 社員の働きがいの向上
 - 心身ともにいきいきと働ける職場環境の実現



ENVIRONMENT

環境

環境を守り育むことで自然を豊かに



目標

- 水資源の保全
- プラスチック資源循環型モデルの実現
- CO₂削減によるカーボンニュートラルへの貢献

水資源の保全

プラスチック資源
循環型モデルの実現カーボンニュートラルへの
貢献

環境 3 つの柱

私たちは事業活動を通じて、関わる人々の生活が豊かになることを目指しています。それを実現するため、天然ミネラルが豊富なナチュラルミネラルウォーターを次世代へ受け継いでいくべく、当社ではこれからも「水資源の保全」を中心に、持続可能な社会の構築に向けた「プラスチック資源循環型モデルの実現」、地球温暖化防止に貢献する「カーボンニュートラルへの貢献」の3つに重点を置いた取り組みを実施していきます。

こうした取り組みは、当社製品をご愛用いただくお客様の数が増えれば増えるほど、社会課題を本質から解決することにつながります。今後もステークホルダーの皆様にご協力をいただきながら、次世代へ豊かな生活を届けるため持続可能な環境構築へ貢献していきます。



8つの水源ごとに 最適な涵養活動により水資源を保全する

地域ごとの最適な
涵養活動の展開

次世代に
水の価値を伝える教育の展開

2030年 KPI達成に向けたプラン

- ・水源の水質管理の強化
- ・地下水の有効活用
- ・水の品質管理の徹底
- ・水資源の涵養／保全

地下水の保全から、未来の水を守る

1 水を創る

目的

地下水が限りある資源であることを踏まえ、地下水の枯渇を防ぎ、急激な地下水位の低下や地盤沈下等、地下水の減少による障害が発生しないよう、地下水の涵養と適正な利用を図る

現取り組み

- ① 水源ごとの揚水量・生産本数を把握
- ② 富士吉田、南阿蘇では、地域にあわせた涵養活動を実施

取り組みの 方向性

- ① 今後も継続して地下水位を把握するとともに、各自治体とのコミュニケーションを図る
- ② 地域ごとの最適な涵養活動に取り組む

2 未来に語り継ぐ

日本の天然水の価値に対する次世代の理解を広げ、未来における水の持続可能性を追求

子どもたちに水の価値や実情を伝える教育活動を実施

今後も継続して次世代に水の価値を伝える活動を実施

1 水を創る

私たちは涵養活動を通じて、地下水の保全に取り組んでいます。



水源涵養機能の高い森が良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区では地域の水資源育成に向け、健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



熊本の地下水を守るため、一年中水を溜める農法によってお米を栽培する“地下水を守るん田”活動を支援しています。

<https://minamiaso-kanpo.jp/chिकासui/>

各自治体とのコミュニケーションと涵養活動

	企業名	地下水の揚水量に対する涵養活動の有無	涵養活動等の内容
富士吉田	プレミアムウォーター富士株式会社	山梨県の条例により涵養活動計画書を提出	揚水量に応じた涵養活動の委託
南阿蘇	製造委託工場	有り	南阿蘇村地下水環境保全基金への寄付 地下水を守るん田への支援

富士吉田、南阿蘇では、地域にあわせた涵養活動を実施しています。

今後は未実施の地域においても、最適な涵養活動の取り組みを進めていきます。

2 PREMIUM WATER FUTURE

サービス提供を通じてユーザー参加型のSDGs活動を実現する“SDGs特化型”の新たなウォーターサーバーブランド『PREMIUM WATER FUTURE』を立ち上げました。

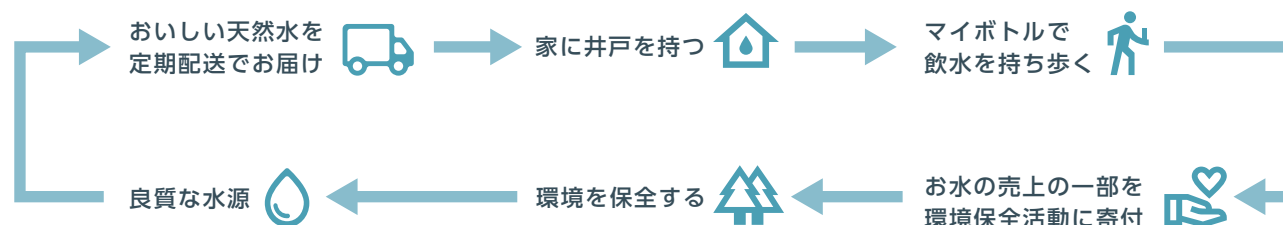
2024年8月末現在、PREMIUMWATERFUTUREの売り上げの一部をウォーターエイドに寄付することで、7,074人が衛生的なお水を利用できるようになります。

※最低ご利用期間を継続してご利用いただくことを前提とした想定寄付金額より算出



PREMIUM
WATER
FUTURE

PREMIUM WATER FUTUREの売上の一部で、愛すべき未来への想いを具現化する活動団体（ウォーターエイドジャパン）を支援していきます。





プラスチック資源循環型モデルの実現

容器・資材のサステナブル資材含有率の向上、
製品の完全循環型モデルを目指します。

安全・衛生面の配慮から、お客様に安心安全に水を飲んでいただけるよう、私たちの製品はプラスチックを活用しています。プラスチックにおけるサステナブルな取り組みについては、4Rの中でも「Reduce」「Recycle」に重点を置いた取り組みを推進しています。

設計段階から環境配慮資材を組み込み、リサイクルしやすいペットボトル/ウォーターサーバーへと規格を見直すとともに、消費者に対するサステナブルな啓蒙まで、一貫通貫のプラスチック資源循環型モデルを実現していきます。

製品の
完全循環型
モデルの実現

ペットボトル分別率

100%

サステナブル資材を

50%以上利用

ペットボトル / ウォーターサーバーの循環型モデルの構築

— 消費者の分別意識を高め、マテリアルリサイクルを追求する —

1 設計・製造

2 消費・分別

3 回収・リサイクル

現
取
り
組
み

ペット
ボトル

ペットボトルの構造を変更し、従来より23%軽量化したボトルに順次入れ替え、2024年度中に全水源の約80%切り替えを目指しています。

当社ペットボトルの分別率は93%

分別がきちんとされている場合、86.0%がリサイクルされている

ウォーター
サーバー

リサイクル時に取り外しがしやすい設計を行う

お客様ご自身で廃棄するのではなく、当社指定事業者が回収を行うことで正しいリサイクルを推進する

- ① プラスチック部品→再生ペレット化
- ② 金属・非鉄金属リサイクル部品→スクラップ原料

取
り
組
み
の
方
向
性

- ① プラスチック削減のために、容器・資材等のサステナブル素材(リサイクル材・植物由来等)の使用を50%以上とすることを目指す※2023年9月時点 使用率5%
- ② ペットボトルの軽量化に向けた研究開発
- ③ 植物性の素材を使ったプラスチックボトルの検証

- ① 製品(ペットボトル/ウォーターサーバー)の完全循環型モデルを実現する ※ペットボトル回収率100%
- ② ペットボトルの分別に関する現状把握
- ③ お客様に対する啓蒙活動
- ④ マイボトル活用の推進

- ① マテリアルリサイクルの推進
- ② 地方自治体と提携
- ③ マテリアルリサイクル推進に向けたサポート

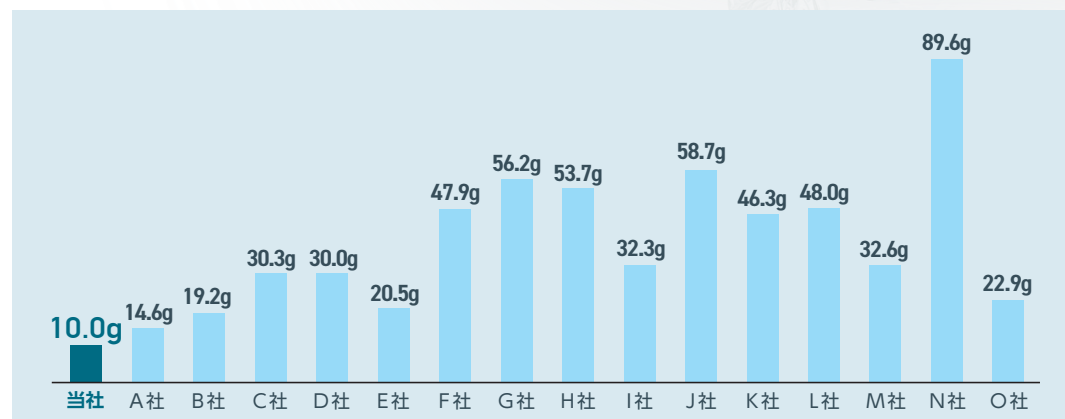
1 設計・製造

ペットボトルの構造を変更し、2023年時点で20%の軽量化を達成し、さらに2024年には3%の軽量化に成功しました。
従来より23%軽量化(プラスチック使用量削減)した新たなペットボトルに順次入れかえ、2024年度中に全水源の約80%切り替えを目指しています。



ペットボトル重量
23%DOWN

1L当たりのペットボトル重量比較 (当社調べ)



2030年プラスチック削減目標

対象	目標	使用率/削減率 (2024年時点)
製品	サステナブル素材 50% 使用	5%
	プラスチック使用量 15% 削減	6%
ボトル	サステナブル素材 50% 使用	—

2 消費・分別

リサイクルマークがついているプラスチックは86.9%※がリサイクルにつながりますが、正しく分別がなされていない場合、リサイクルにつなげることは困難です。私たちの宅配水というビジネスでは、お客様を特定できるため、お客様一人ひとりに正しい分別を依頼することが可能です。

※参照：PETボトルリサイクル推進協議会 年次報告書2023 <https://www.petbottle-rec.gr.jp/nenji/2023/>

ペットボトル分別率

—お客様アンケートより、当社ペットボトルの分別率を調査—

2023年
(9月時点) **87%**

2024年
(8月時点) **93%**

今後の取り組み

お客様への啓蒙を徹底してペットボトルリサイクルに関する知識を共有するとともに、正しい分別につなげていく

お客様に対してマイボトルの利用を促進する等、廃棄が発生しない配慮を行う

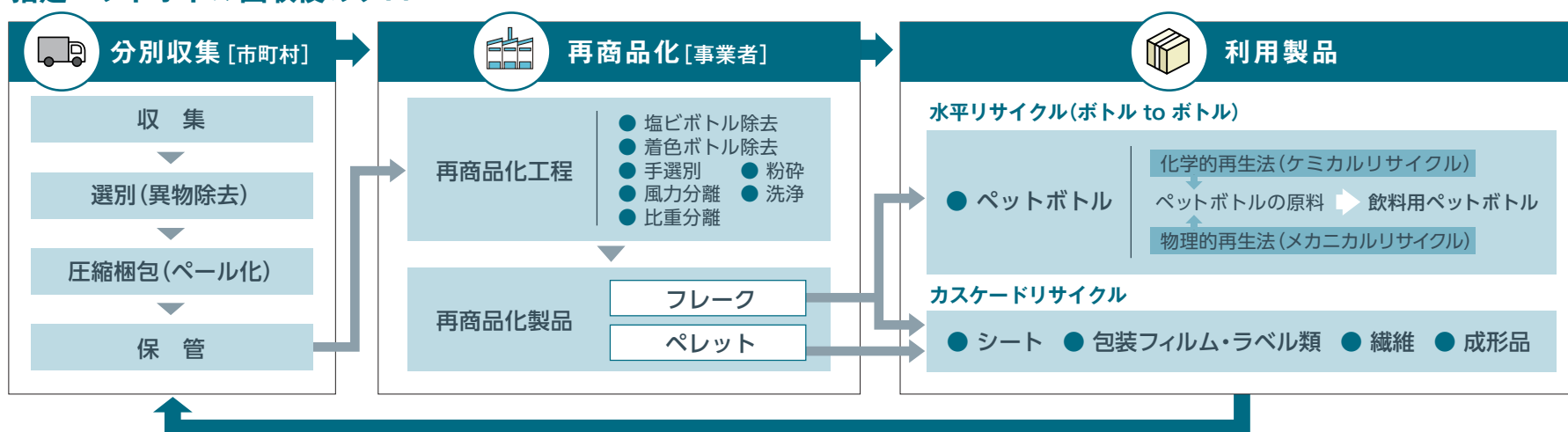
3 回収・リサイクル(プラスチック)

日本のペットボトルリサイクル率は86.9%と、世界最高水準です。

ただ、回収されたペットボトルが再びペットボトルとなる水平リサイクル率は29.0%に留まっています。

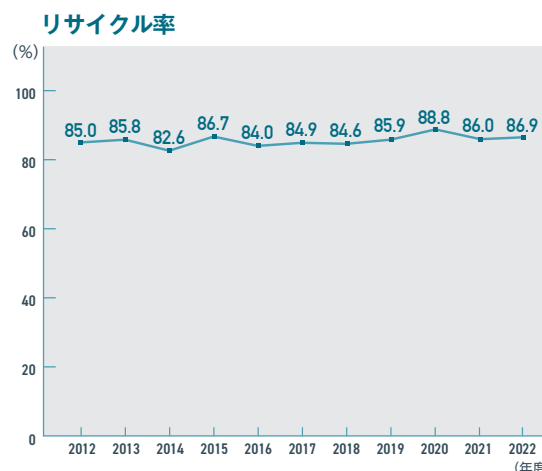
今後、ペットボトル資源の循環を促進する「ボトル to ボトル」の比率を高めることが求められています。

指定ペットボトル回収後のフロー



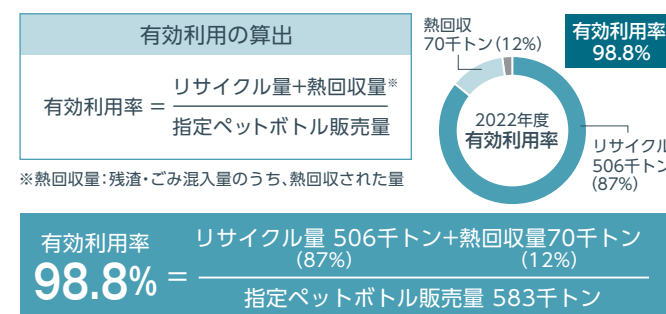
指定ペットボトルの回収後の有効利用率は98.8%と高いが、リサイクル率はダンボールより低い

指定ペットボトルのリサイクル率は86.9%で2011年段階より増加傾向にありますが、ダンボールのリサイクル率が9割あるのに対し、指定ペットボトルのリサイクル率は低くなっています。これはペットボトルが正しく分別されていないことに起因しています。



2030年度までにPETボトルの100%有効利用*を目指す 2022年度 指定PETボトルの有効利用率 98.8%

*有効利用: リサイクルに熱回収を加えたもの



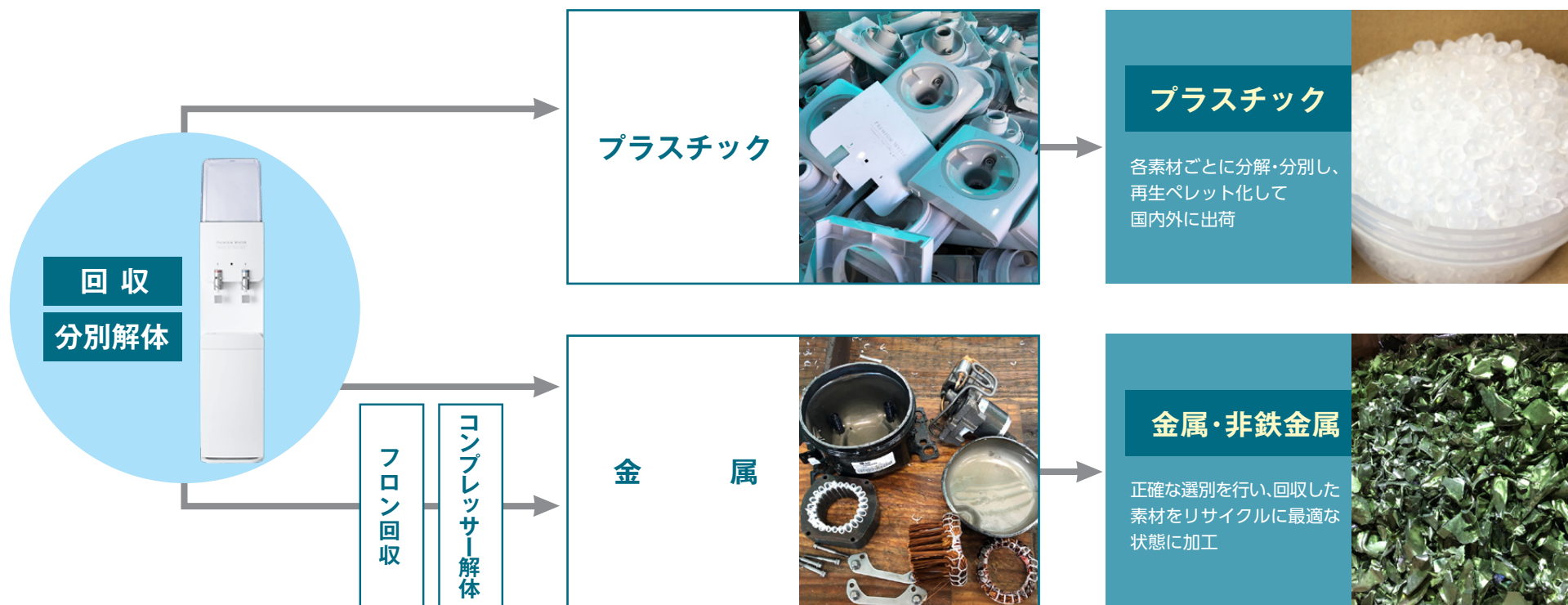
$$98.8\% = \frac{\text{リサイクル量 } 506\text{千トン} (87\%) + \text{熱回収量 } 70\text{千トン} (12\%)}{\text{指定ペットボトル販売量 } 583\text{千トン}}$$

(出典: PETボトルリサイクル推進協議会 年次報告書2023)

4 回収・リサイクル(ウォーターサーバー)

ウォーターサーバーは回収不可となっている自治体もあり、お客様ご自身で処分する場合は注意が必要です。
プレミアムウォーターのウォーターサーバーはレンタルのため、本体をお客様ご自身で処分していただく必要はありません。
解約時には、ウォーターサーバー本体を回収するため、正しい処理が可能です。

使用済みウォーターサーバー処理フロー



当社指定の廃棄事業者では自社工場内で解体選別や破砕による減量化を行うことで、資源再生製品を出荷する際の輸送コスト、CO₂排出量を削減しています。

また、第1種フロン類回収業者に登録済みで、自社工場内にてフロンガスを大気中に放出させることなく完全に回収し、適正処理を行っています。



脱炭素社会の実現を目指し、カーボンニュートラル工場を軸にした省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの積極的な導入及びバリューチェーンのステークホルダーとの協働を通じて、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量の削減に努めます。

カーボンニュートラル工場における取り組み

再生可能エネルギーの使用によるCO₂削減

- ① 太陽光発電の導入
- ② バイオマス(廃樹脂)ボイラーの使用
- ③ カーボンフリー電気・ガスの使用

省エネの推進

- ① 省エネ機器への入替

工場機器の排熱利用

- ① 原料水の昇温による熱源を排熱利用
- ② 空調機器の水冷化



当社グループではScope 1、2のCO₂排出量を2022年3月期対比で50%の削減を目標としております。また、当社はScope 3のデータを可視化することにより、商品・サービスにおける「廃棄物の削減」及び「資源の有効活用」を進めるとともに各社との共同配送輸送等で流通段階における温室効果ガス削減にも取り組んでまいります。

※単位:tCO₂e

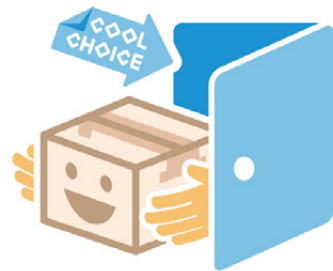
		2023年3月期	2024年3月期
Scope 1	自社での燃料使用	986.85	1,101.97
Scope 2	他社から供給された電気・熱・蒸気の使用	5,142.47	5,628.30
Scope 3	2. 資本財	32,471.46	54,733.94
	3. Scope 1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	922.23	1,011.41
	4. 輸送、配送(上流)	20,958.65	20,223.47
	5. 事業から出る廃棄物	355.85	358.02
	6. 出張	1,728.95	1,632.38
	7. 雇用者の通勤	255.16	242.34
	12. 販売した製品の廃棄	1,169.57	1,162.54
	13. リース資産(下流)	179,941.11	192,657.75



プレミアムウォーターは「COOL CHOICE」に賛同しています

プレミアムウォーターは、2017年3月より環境省が行う「COOL CHOICEできるだけ1回で受け取りませんかキャンペーン～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～」に賛同しています。

宅配便の再配達による環境負荷の増加や社会的損失を防ぐため、新たな配送サービスの取り組みとして一部地域を対象に『指定場所配送サービス』を実施しています。



1回で受け取りませんか

ウォーターサーバー業界初！ CO₂e排出削減率を示すマーク 「デカボスコア」を2023年7月に取得しました

「デカボスコア」とは、生活者一人ひとりのアクションで脱炭素社会を推進する「Earth hacks」のサービスとして、商品やサービスのCO₂e排出削減率を可視化したマークです。お客さまが商品やサービスを選ぶ際の、環境価値における新しい選択基準として提供されています。

プレミアムウォーター12Lボトルの天然水を1本消費した場合、500ml ペットボトル24本（計12L）のミネラルウォーターを消費した時に比べて、52%のCO₂e排出量を削減できることが示されました。

（製品1つあたりの製造工程におけるCO₂e削減量）





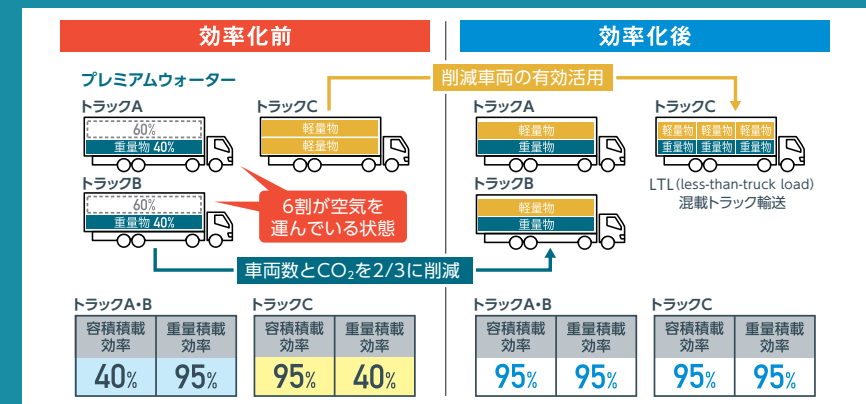
大阪市内の配送車両を年間約2,000台削減！ コクヨサプライロジスティクスと 大阪市内での共同配送を開始

プレミアムウォーターでは、天然水ボトルの配送が週末に集中する傾向があり、BtoB市場向けにサプライ用品や日用雑貨の配送を手がけるコクヨサプライロジスティクスは平日の配送車両の積載効率を最適化するという課題がありました。そこで双方が抱える課題解決のため、大阪市内での共同配送を開始しました。両社の配送効率の向上により、大阪市内の配送車両を年間約2,000台削減することができるようになります。



フィジカルインターネットサービスを活用し、 伊藤忠商事とプレミアムウォーターが 物流課題の解決を目指す

フィジカルインターネットサービスとは伊藤忠商事、ほか数社が結節点を活用し異なる輸送企業を全国リレー相互接続する新しい輸送サービスです。プレミアムウォーターでは、物流課題とされている「ドライバー不足」「CO₂排出量削減」「中小ロット貨物輸送」「運賃高騰」の解決策として、フィジカルインターネットサービスを活用し、他荷主との混載による高効率な輸送ルートを拡大し、持続可能な物流の実現を目指します。



COMMUNITY & SOCIETY

地 域 ・ 社 会

地域と共生し人々の暮らしを豊かに



目 標

地域コミュニティの発展
地域環境の保全
地域経済圏の構築

住み続けられる街づくりを

貧困をなくそう

全ての人に健康と福祉を

地域共生
方針

質の高い教育をみんなに

陸の豊かさを守ろう

地域・社会への貢献

生活インフラに欠かせない「水」をお届けしている私たちは、日常・非常時にかかわらず、安心安全な水を飲める環境を提供することが使命と考えています。そのため非常時にも、安定して水を供給できるよう自治体との災害協定を結び、インフラ整備の支援をしてきました。また持続可能な支援を行うため、当社の水源がある地域を中心に、環境保全を含めた地域課題の解決に取り組んでいます。今後はより地域に密着し、地域や自治体の皆様とともに、天然水を通じてより豊かな暮らしの実現に向け取り組んでいきます。



生活インフラに欠かせない「水」をお届けしている私たちは、
 日常・非常時にかかわらず、安心安全な水を飲める環境を提供することが使命と考えています。
 そのため非常時にも、安定して水を供給できるよう自治体との災害協定を結び、
 インフラ整備の支援をしてきました。また持続可能な支援を行うため、
 当社の水源がある地域を中心に、環境保全を含めた地域課題の解決に取り組んでいます。
 今後はより地域に密着し、地域や自治体の皆様とともに、
 天然水を通じてより豊かな暮らしの実現に向け取り組んでいきます。

プレミアムウォーターは地域社会と共生し、
 人々の暮らしの豊かさと
 持続可能な社会の実現を目指します。



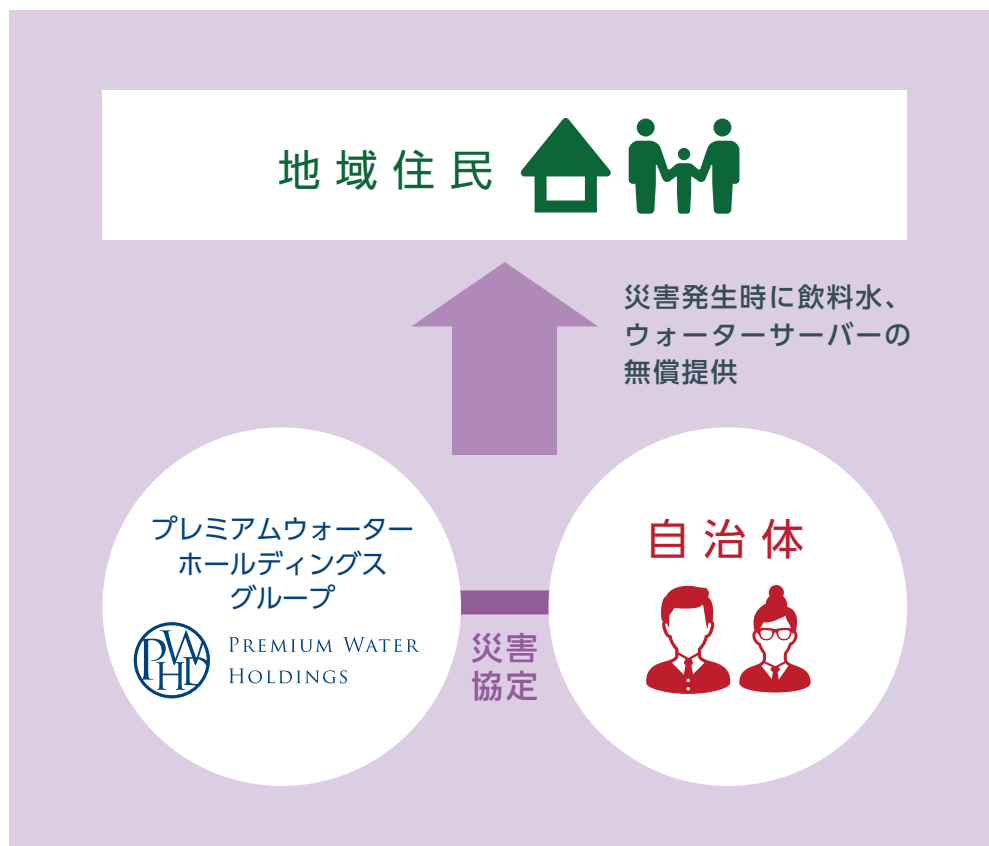
ステークホルダーとの対話を重視し、
 豊かな暮らしに向けて
 ともに取り組んでいきます。



地域共生活動を
 従業員の新たな活躍の場と捉え、
 積極的な活動を推進します。



自治体との災害協定締結によって、災害時に飲料水の供給を実現します。



災害発生時の支援

1

災害発生時に、必要に応じて被災者に対し飲料水を供給することを目的として、山梨県富士吉田市・岐阜県北方町・兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しています。同市町村での災害発生時に、被災者に飲料水の提供が必要となった場合、飲料水の無償供給及びウォーターサーバーの無償貸与を行います。

2

プレミアムウォーターのウォーターサーバーは、災害時の備蓄用の水としても利用が可能です。

プレミアムウォーターは災害時における飲料水供給をはじめ、義援金の寄付や被災地支援品の寄贈、被災した子どもたちを支援する少年サッカーへの特別協賛等、さまざまな復興支援活動を行っています。

取り組み



被災地復興を目的としたサッカー大会の開催

サッカーの楽しさと技術の向上とともに、熊本地震で被災した子どもたちの心身の健全な回復に役立つ場となることを目的として、2017年6月17日に開催されたNPO法人熊本県キッズサッカー協議会主催の「PREMIUM WATER Presents キッズ&ジュニアサッカーフェスティバル」に特別協賛しました。約1,260名(126チーム)の子どもたちが参加してくれました。

被災地復興プロジェクト

『被災地復興プロジェクト』とは、採水地の一つ山梨県富士吉田市で収穫したお米「プレミアムウォーター米」を宅配水のご契約者様限定の通販サイト「PREMIUM MALL(プレミアムモール)」にてチャリティ商品として販売し、その売上の一部を義援金として被災地へ寄付するというもので、販売開始から約3週間で完売しました。本プロジェクトにて集まった義援金は令和元年台風第15号及び19号による被災地に、赤い羽根共同募金(社会福祉法人中央共同募金会)を通して義援金120,000円を寄付しました。

復興支援

「令和6年 能登半島地震」による被災地支援

ヤマトホールディングス株式会社のご協力のもと、プレミアムウォーター2,048本(24,576L)・非常用キット400セットを寄付しました。

また株式会社LDHのご協力のもと、下記を支援物資として被災地の方々へ寄付しました。



◀株式会社LDHとの支援内容詳細▶

PREMIUM WATER FUTURE ウォーターサーバー :7台
プレミアムウォーター:100本(1,200L)
プレミアムウォーターPETボトル(300ml) :1,200本(360L)
プレミアムウォーターバッグインボックス(6L) :35箱(210L)
非常用キット :6セット
タンブラー :200個



西日本豪雨による被災地支援品の寄贈

城南信用金庫の協力のもと、城南信用金庫が持つ全国の信用金庫のネットワークを活用して、愛媛信用金庫と連携を行い、2018年7月28日に支援品として避難所へ「プレミアムウォーター」250本と「ウォーターサーバー」20台を寄贈しました。



熊本地震における義援金寄付

南阿蘇村の復旧・復興を支援するため、2016年5月23日～8月31日の期間における南阿蘇天然水の売上金額の一部(1,624,075円)を南阿蘇村の義援金窓口を通じて寄付しました。



お客様への防災啓蒙活動

日頃から災害に備えていただくために、「防災対策」の大切さを伝え、備蓄やローリングストック等、備えることについての情報を定期的に発信しています。

特設サイトの作成

防災に関する情報を特設サイトにまとめ発信しています。

漫画の作成

よりわかりやすく防災に関する情報をお届けするため、漫画を用いて発信しています。

非常時にプレミアムウォーターがあっただけ助かった家族のお話

お水の備蓄できていますか？
備蓄に便利！お水の定期配送

プレミアムウォーターのウォーターサーバーを導入いただくと、お水が定期配送されるので自然にローリングストックができ、防災の観点からもおすすめです。

ローリングストックとは？
普段のお買い物でいつもより少し多めに買い置きし、賞味期限が近いものから消費して、消費した分をまた買い足していく方法をローリングストック法と言います。

備蓄のお水はどのくらい必要？
災害によってライフラインが止まってしまった場合、最低でも3日分(できれば1週間分)の食品の備蓄が望ましいと言われています。農林水産省が発行している「災害時に備えた食品ストックガイド」では、1人あたり1日3ℓ(飲料水+調理用水)ほどの備蓄水をストックすることを推奨しています。

防災士からのコメント

防災士など専門家が推奨する対策や防災のために関する情報を発信しています。

防災士に聞きました！
お水を備蓄しておくことの重要性

お水は人間にとって生命維持に不可欠であり、普段から生活においてもさまざまなシーンで利用しています。災害発生時、お水の供給が途絶える可能性が高いため、自分自身と家族分のお水を備えておくことは必須です。

お水を備えることの大切さを実感するためには、日常生活において、どのようなシーンでどれぐらいのお水を使っているかを意識してみてください。朝起きてから夜寝るまでの間にあらゆる場面でたくさんのお水が身近にあることがわかります。そして、いつもの暮らしの中で節水を心がけてみてください。普段から節水の意識があると、お水の無駄使いを避ける習慣が身に付きます。お水を使わない方法や、少量のお水で生活する方法は災害時には非常に大切です。

災害時にお水の備えがあるかどうかで避難生活の明暗を分けるといっても過言ではありません。自分の命や生活のために、必要量のお水を備えておきましょう。

お話を伺ったのは…
佐藤里香さん
magocoro base(まごころベース)代表、「防災をカジュアルに。」をコンセプトとし、事業を展開。防災士/災害備蓄管理士/防災備蓄収納2級プランナー/備蓄防災食調理アドバイザー

貧困をなくそう



子ども食堂へのお米、天然水の寄付

子ども食堂へ自社収穫米を寄付

貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社工場のある富士吉田で収穫したお米を寄付しました。

実績

合計 **1,300 kg**

(約20,000食分*)

2019年

お米「ミルキークイーン」 350kg
(約5,400食分*)を寄付

2018年

お米「ミルキークイーン」 350kg
(約5,400食分*)を寄付

2017年

お米「ミルキークイーン」 600kg
(約9,200食分*)を寄付

※1食分を米65gにて計算



天然水の寄付

子ども食堂や社会福祉法人に紙パックの天然水を約23,800本を寄付しました。

約 **23,800 本**



宅配水の有効活用として、福祉施設へ無償提供

プレミアムウォーターのご利用者様がお受け取りにならなかった宅配水の有効活用と福祉への貢献を目的に、2014年より富士吉田市の障がい者福祉施設に天然水とウォーターサーバーを無償で提供しています。



小学校での出張授業

府中市立府中第五小学校 小学4年生約120名を対象に出張授業を実施

『キャリアパスポート』を活用した教育の一環として、
「天然水や自然の大切さ」を学べる授業を行っています。
天然水を取り扱う企業だからこそ「日本の天然水という価値ある資源を未来に残していくために、
自分たちにできることとは何か」について、子どもたちにしっかりと伝えています。



質の高い教育をみんなに



南阿蘇村 田植え・稲刈り体験イベント

採水地でもある南阿蘇の天然水は、安全であることに加え、その豊富な地下水量は世界一とも言われています。

その南阿蘇の自然から育まれた地下水を、「この先もずっと残していきたい、そして同じこの南阿蘇の天然水で育ったお米をその土地の天然水で炊き、そのおいしさを多くの皆さんと共有したい」という思いから、2015年よりこの取り組みをスタート。支援している水田では一年中お水を溜める農法でお米を栽培しています。

参加人数

- 2016年:田植え(32名)・稲刈り(80名)
- 2017年:田植え(64名)・稲刈り(68名)
- 2018年:田植え(92名)・稲刈り(84名)
- 2019年:田植え(92名)・稲刈り(82名)
- 2023年:田植え(63名)・稲刈り(80名)
- 2024年:田植え(78名)



通学路への掲示物

兵庫県にある朝来工場では、工場前が小学生の通学路になっており天然水の製造工程を掲示するほか、季節ごとに水にまつわる学習コンテンツを掲示しています。

地元の天然水の価値や素晴らしさを訴求するとともに、貴重な水資源について楽しく学んでいただいています。



質の高い教育をみんなに

4 質の高い教育を
みんなに



COMMUNITY & SOCIETY

地域共生方針

星付きシェフ×園児が和食文化の継承危機を救う!? 「1日限定！こども料亭」

和食文化の大切さを伝えるために、星付きシェフと園児による、両親へのおもてなし和食創作イベント「1日限定！こども料亭」を都内の保育園にて実施しました。子どもたちは招待状とご挨拶で両親をお出迎えし、さらに星付きシェフである「西麻布 大竹」の大竹達也氏が考案した「一汁三菜」のレシピをもとに、両親への感謝の気持ちを込めて和食料理を振る舞いました。会場には和紙に印刷された「お品書き」や和柄の折り紙で作った「箸置き」などを用意し、料亭の雰囲気を楽しんでいただいたほか、大竹氏によるいわし捌きの実演や、質問コーナーなども実施し、日本の誇る和食文化を知っていただく機会を提供しました。

星付きシェフ「麻布和敬」竹村竜二氏が、「親子で体験お料理教室」で 食品ロス食材を用いた簡単レシピを伝授！

ミシュラン一つ星の和食の名店、「麻布和敬」の竹村竜二氏をお招きし、食品ロスに関連する「親子で体験お料理教室」を開催しました。当日はプレミアムウォーターホールディングスグループの障がいを持つ社員が働く「AGRIKO FARM PW桜新町」にて食品ロスについての基本的な知識を学び、アクアポニックス（養殖×水耕栽培）で育てられた魚や野菜の収穫体験を行いました。竹村氏から、食品ロス問題に対する想いや、家庭から出た野菜の皮やヘタなど「食品ロスに繋がりがやすい食材」を用いた簡単レシピで料理教室を実施しました。そのほかアジ捌きの実演や質問コーナーなども実施し、食品ロスに対する学びと実践のきっかけを提供しました。

中学生を対象とした富士吉田工場見学

社会貢献活動の取り組みの一環として、山梨県の中学2年生を対象に、富士吉田工場の工場見学を実施しました。工場の紹介後には、実際の生産設備を見学し、天然水の製造工程などについて学んでいただきました。



森林整備活動(西桂地区)

水源涵養機能の高い森が良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区では地域の水資源育成に向け、健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



富士山清掃活動

富士山周辺の環境を守ることが数十年後の水資源の保護につながるという考えから、富士吉田市主催「富士山吉田口登山道周辺清掃活動(毎年5月頃開催)」及び NPO法人フジヤマフォーラム主催「富士山の環境を守る清掃活動(毎年11月頃開催)」へ継続的に参加しています。



GOVERNANCE

ガバナンス

公正で透明かつ潤いのある組織を

16 平和と公正を
すべての人に



目 標

企業統治の実効性・透明性の向上に向けた法令等の遵守
適時適切な情報開示等を通じた
コーポレート・ガバナンスの強化

経営の透明性

健全性の確保

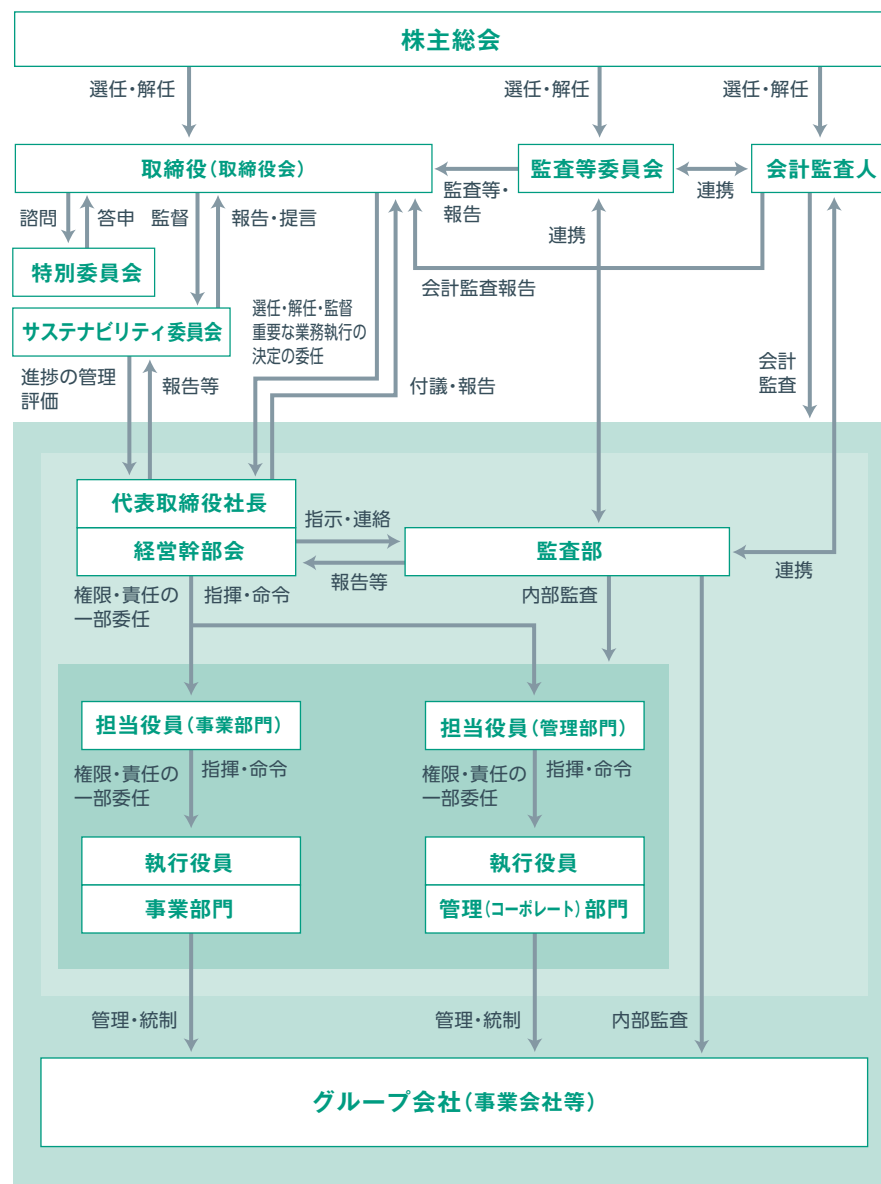
環境の変化に迅速・適切に対応できる
経営機能の強化

ガバナンス 3 つの柱

プレミアムウォーターホールディングスは、企業価値の継続的向上を目的に、経営の透明性と健全性の確保及び環境の変化に迅速・適切に対応できる経営機能の強化がコーポレート・ガバナンスの重要な目的であると考えています。今後も適切なコーポレート・ガバナンス体制の強化に努め、経営における意思決定及び業務執行の効率化・透明性を向上させることを基本方針に、企業価値・株主共同の利益の持続的な向上に努めています。

引き続き、コンプライアンス経営の徹底、リスクマネジメントの強化、監査体制の充実を行うことで、コーポレート・ガバナンスの構築・維持に努めていきます。

コーポレート・ガバナンス体制



会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

取締役会

当社の取締役会は、取締役16名(うち監査等委員である取締役は5名)であり、そのうち社外取締役は4名(うち監査等委員である社外取締役は3名)で構成しております。当社の取締役会は、当社グループの経営又は事業運営に関する重要事項、法令で定められた事項に関する意思決定を行うとともに、定款及び取締役会の決議等に基づいて取締役に委任した事項の職務執行状況等を監視・監督しております。

また、上記のほか、当社は、原則として月1回の定時取締役会の開催に加え、重要案件が生じたときに臨時取締役会を開催し、又は会社法第370条に基づく書面決議を行うことにより、職務執行に対する監視・監督の強化と意思決定の迅速化の強化を図っております。

経営幹部会

当社は、取締役から委任された重要な事項の審議又は業務執行の決定等を行う機関として経営幹部会を設置しております。経営幹部会は、常勤の取締役6名及び取締役に選任された上級執行役員4名で構成されております。経営幹部会は、「職務権限一覧表」に定めた決裁事項に基づき、会社の重要な事項の審議・決裁・承認・報告を行い、迅速な意思決定を実現しております。

監査等委員会

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役5名(うち過半数の3名は社外取締役)で構成しており、毎月1回の定時監査等委員会を開催するほか、速やかに審議又は決定すべき事項が生じたときは臨時監査等委員会を開催いたします。また、監査等委員会の活動の実効性を確保するため、監査等委員である取締役の中から監査等委員会の決議により常勤の監査等委員を1名置き、常勤の監査等委員が当社グループの重要な会議に出席し、取締役の職務執行状況等の把握と監視に努めるとともに、監査部及び会計監査人と連携して実施する多角的な観点に立った監査手続を通して、法令遵守の状況の点検及び確認、財務報告に係る内部統制を含めた内部統制システムの整備及び運用の状況等の点検及び確認を経て、取締役の職務執行が法令及び定款に適合し、その業務が適正に遂行されているかを監督及び監査いたします。

監査部

当社は、会社の資産の保全のため、また、業務の適正な執行状況を確認するため、内部監査業務を担う監査部を設置しており、専任担当者2名が監査を行っております。

内部監査に関する基本事項を内部監査規程に定め、監査等委員会及び会計監査人と内部監査情報の緊密な連携の下、内部監査計画に基づき実施しております。内部監査結果は代表取締役のみならず、取締役会並びに監査役及び監査等委員会に報告するほか、監査対象部門と意見交換を実施し必要に応じて改善を促しフォローアップを行うことにより、不正行為の未然防止等に努めております。

サステナビリティ委員会

当社のサステナビリティ委員会は、経営管理本部を管掌する執行役員を委員長とし、サステナビリティに関する議論を集約し体系的に取り組んでいく役割を担います。同委員会においてサステナビリティに関する方針の策定をはじめ、取組み状況のモニタリングや進捗の管理、評価等を行い、その結果を取締役に報告・提言し、取締役会がこれを監督します。

取締役会に関する情報

基本方針

当社は、企業価値の継続的向上を目的に、経営の透明性と健全性の確保及び環境の変化に迅速・適切に対応できる経営機能の強化がコーポレート・ガバナンスの重要な目的と考えております。当社を取り巻く環境を踏まえながら、経営の健全性と透明性のより一層の確保と業務執行の効率性・機動性の向上を適切に両立させるよう努めてまいります。

取締役会活動状況

取締役会は月に1回定期的に、または必要に応じて適時開催しており、議長は社長が務めています。
2024年3月期については17回開催され、取締役となった16名のうち15名が17回全てに出席しております。

取締役のスキル・マトリクス

スキル・マトリクスは、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上に必要な取締役会全体としてのバランス、多様性、規模等を勘案して、取締役会及び監査等委員会が備えるべきスキルを明確化した「スキル・マトリクス」に照らし、スキルを保有する取締役（監査等委員である取締役を含みます。）をバランスよく備え、多様性が確保できるように努めてまいります。

・有価証券報告書（コーポレート・ガバナンスの状況：「取締役会活動状況」等）

<https://premiumwater-hd.co.jp/ir/library/yuhou.html>

※2024年3月期：https://premiumwater-hd.co.jp/ir/upload_file/m005-m005_03/S100TO96.pdf

・株主総会 招集ご通知（役員のスキル・マトリクス等）

<https://premiumwater-hd.co.jp/ir/stock/agm.html>

※2024年3月期：https://premiumwater-hd.co.jp/ir/upload_file/m006-m006_04/20240619.pdf

・コーポレート・ガバナンス報告書（取締役会の状況等）

<https://premiumwater-hd.co.jp/ir/management/governance.html>

※2024年版：https://premiumwater-hd.co.jp/ir/upload_file/m002-m002_03/2588_20240628540893_P01_.pdf



COMPANY EMPLOYEE

社員

多様性を尊重し働きがいのある環境で
社員の人生を豊かに



目標

ダイバーシティ&インクルージョンの推進による
多様な人材の活躍の場を創造
社員の働きがいの向上
心身ともにいきいきと働ける職場環境の実現

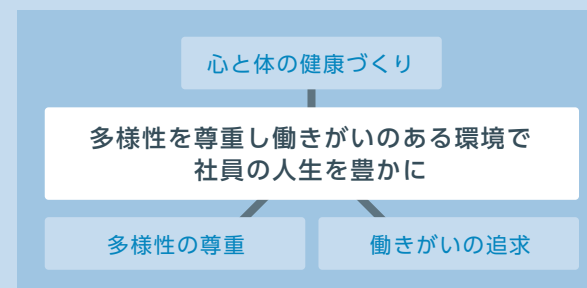
心と体の健康づくり

多様性の尊重

働きがいの追求

社員 3 つの柱

私たちは、自社の活動を通じて人々の生活を豊かにしていきたいと考えています。お客様や地域・自治体の皆様はもちろんのこと、社員がいきいきと働ける環境をつくり、一人ひとりの社員が活躍できるよう多様性と向き合います。また、社員の心と体の健康づくりにも取り組んでいきます。





心と体の健康づくりを促進し、維持できる環境をつくる

社員が働きやすい環境づくり

制度・体制の拡充や柔軟な対応

産前産後休業・育児休業および育児給付金等の制度

在宅勤務(テレワーク)を可能とする環境

定期的なストレスチェックの実施

介護休業制度

従業員への配慮

妊娠や育児等に伴う部署移動

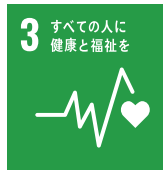
従業員の労働時間の管理

やりがいやモチベーションが向上される環境づくり

サンクスカードの実施

従業員同士で日頃の感謝の気持ちを紙やデジタル上のカードに書いて送り合う制度。プレミアムウォーターホールディングスでは、工場や内勤部署で実施しています。社内でのコミュニケーション活性化やお互いの信頼関係の構築を促すことを目的としています。





多様性を尊重・包摂し、一人ひとりが活躍できる社会をつくる

当社グループは、国籍や性差等を問わずに採用を行うとともに、女性・外国人・中途採用者の管理職といった中核人材の登用等に制限を設けることなく、多様性の確保に取り組んでおります。

女性管理職比率



役員における
女性比率

選任数 **2名**

採用者の
女性割合

グループ
全体 **64名**

39.8%

※新卒採用における女性社員比率 45.3%
※中途採用における女性社員比率 37.0%

2030年までに管理職に占める女性労働者の割合を30%にすることを目標にしつつ、人材の育成と社内環境整備に必要な検討を進めてまいります。



AGRIKO

当社は多様性を尊重する取り組みのひとつとして、「AGRIKO FARM」の活動を支援しています。「AGRIKO FARM」は養殖と水耕栽培のシステムを合わせたサステナブルな農業システム「アクアポニックス栽培」を採用した“循環型農福連携ファーム”です。プレミアムウォーターでは障がいを持つ従業員数名がファームの点検や手入れの作業に従事しているほか、アクアポニックス栽培の水槽を提供する等の協賛を行っています。



「AGRIKO FARM PW桜新町」と「プレミアムウォーター」親子で体験 SDGsイベント

プレミアムウォーターのご契約者様を対象にしたSDGsイベントを実施。SDGsについての基本的な知識や、プレミアムウォーターホールディングスグループのSDGsの取り組みについて学んだり、アクアポニックスで育てられた魚や野菜の収穫体験をおこないました。私たちの暮らしにかかせないお水には現在どのような問題があるのか、また大切なお水を守るために普段の生活でできるSDGsとは何かを、参加者の皆様と一緒に考えました。



社員一人ひとりが公私ともに充実感をもち、
企業として働きがいを感じる環境をつくる

教育制度の整備

個人の成長を促す目的で、プレミアムウォーターでは全社員が学べる教育環境を提供しています。受講推奨カリキュラムを明確にすることで評価される知識やスキルを明示し、階層別に必要な知識を高めながら、仕事の質の向上に取り組んでいます。

研修カリキュラム

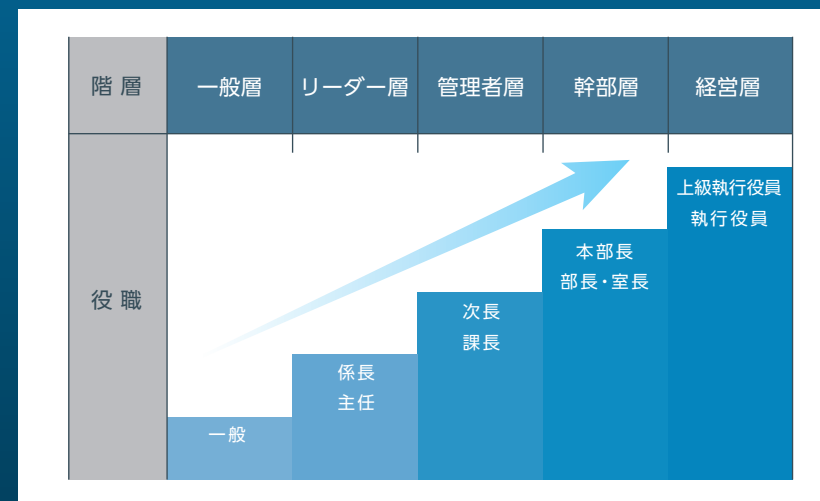
● 受講対象者 ○ 受講資格者(準対象者)

研修講座	導入研修①	導入研修②	導入研修③ (新卒のみ)	コンプライアンス研修	管理監督者研修	評価者研修	組織論	役員研修	財務研修①	財務研修②	予算統制	戦略・分析
幹部層							○	●	○	●	●	●
管理者層	○	○			●	●	●		●		○	○
リーダー層	○	○										
一般層	●	●	●	●								

キャリアステップ

社員のモチベーション向上と組織の活性化を図ることを目的として、半年に一度キャリア面談によるキャリアアップの機会を設けています。平均的には6~7年で管理職となりますが、実力があれば3年で管理職になるケースもあります。また次世代幹部育成制度「NEXT」では、若手社員が経営幹部主体の営業会議やマネジメント研修等に参加することができます。

階層と役職の関係性



人事関連データ (2024年3月期)

従業員数		グループ全体の従業員数（役員、臨時従業員を除く）
全	体	848名
男	性	562名 （66.3%）
女	性	286名 （33.7%）
管理職者数		グループ全体の管理職者数（役員、臨時従業員を除く）
全	体	184名
男	性	134名 （72.8%）
女	性	50名 （27.2%）
役員数		役員数（子会社を除く）
全	体	17名
男	性	15名 （88.2%）
女	性	2名 （11.8%）
採用人数		グループ全体の採用人数（臨時従業員を除く）
全	体	161名
男	性	97名 （60.2%）
女	性	64名 （39.8%）

平均年齢		グループ全体の平均年齢（役員、臨時従業員を除く）
全	体	34.4歳
男	性	35.6歳
女	性	32.0歳
平均勤続年数		グループ全体の平均勤続年数（役員、臨時従業員を除く）
全	体	5年2ヶ月
男	性	5年5ヶ月
女	性	4年9ヶ月
有給取得率		グループ全体の有給取得率（臨時従業員を除く）
全	体	75.2%
男	性	69.8%
女	性	85.8%
育休取得率		グループ全体の育休取得率
全	体	71.4%
男	性	45.5%
女	性	100.0%



会社概要

会社名 | 株式会社プレミアムウォーターホールディングス
所在地 | 東京本社
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-23-26
本店
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田4597-1
資本金 | 4,698百万円

代表取締役社長 | 金本 彰彦
設立年月日 | 2006年10月13日
事業内容 | 自社ブランド「PREMIUM WATER」を中心とする
ミネラルウォーターの宅配事業を行う子会社等の
経営管理及びそれに付帯又は関連する業務
U R L | <https://premiumwater-hd.co.jp/>



※2024年3月31日現在